

2011.10.1第1117号
ISSN 0913-0217

発行人／長 瀬 清
発行所／北海道医師会
〒060-8627

札幌市中央区大通西6丁目
TEL(011)231-1432
FAX(011)221-5070

北海道医報

2011
10
月号



北海道 美の遺産

北岡 文雄 羅白岳錦秋

北海道立近代美術館 所蔵

CONTENTS

北海道医報
平成23年10月1日 第1117号

| | | |
|---|----------|----|
| 指標／北海道地域医療振興財団の現況 | 三宅 直樹 | 3 |
| 医の倫理綱領 | | 9 |
| 速報／第136回 北海道医師会臨時代議員会、平成23年 臨時総会 | | 10 |
| 罷熊通信 特集／北の大地に医療の場を求めた会員たち | | 14 |
| 罷熊通信 | | 22 |
| 報告／日本の医療を守る道民協議会 第9回総会 | 深澤 雅則 | 27 |
| 平成23年度 北海道医師会賞・北海道知事賞 受賞者業績紹介 | | 28 |
| 「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」学習会 | 橋本 洋一 | 32 |
| 税務相談室／固定資産税、事業税のあらまし | 中村 孝一 | 34 |
| 会員のひろば／はつかり5号とあずさ2号 | 水関 清 | 36 |
| 人と鹿；お辞儀の交歓 | 門脇 純一 | 37 |
| 『歴史能力検定』をご存知ですか？ | 木島 基 | 37 |
| 函館の啄木 | 仲屋 裕樹 | 38 |
| 40年ぶりの発表会 | 坂本 伸雄 | 39 |
| 日本語の多様性：日本人の寛容性と曖昧さ | 大平 整爾 | 39 |
| 女性のQuality of Lifeの向上を願って | 木村 美帆 | 41 |
| マラソン大会&ジンギスカン | 佐藤総太郎 | 41 |
| 医療よ医師よ 「生命科学振興と医哲学」 | 佐々木 迪郎 | 42 |
| 郡市医師会だより／札幌市医師会 市民対話集会2011 | 井上 善之 | 44 |
| 2011年前半期 北見医師会主催のフォーラムの報告 | 木村 輝雄 ほか | 45 |
| 医学会・医学講演会等 開催情報 | | 50 |
| 中央50 道南57 後志58 日胆58 空知60 道北61 北見64 道東65 | | |
| その他開催情報 | | 67 |
| 会議室／第9・10回 常任理事会、第3回 理事会 | | 70 |
| 売貸医院・医師招聘情報 | | 76 |
| 新規指定医療機関 | | 80 |
| 道医の動き | | 80 |
| 訃報 | | 81 |
| 道医師国保の頁 | | 82 |
| 季節風／《震災関連疾患》を乗り越えて | 橋本 洋一 | 90 |

お知らせ

道医報へのご投稿等について⑧／2012年版 医師日記の申込みについて⑬
電子メールアドレス発行申し込みのご案内②⑥／研修会等への託児サービス併設費用の助成③③
第38回 全道医家囲碁大会開催のご案内③⑤／道医サポートセンターのご利用について④⑨
認定産業医制度 研修会一覧⑥⑧／認定健康スポーツ医制度 再研修会一覧⑥⑨
電子メールによる会員への情報提供⑦⑨／ホームページフォトギャラリー作品募集⑧⑦
グループ保険のご案内⑧⑨

| | | | | | |
|-----------|-------------|------------|-------------|----|-----------|
| 北海道医師会会員数 | 8,398名 (+4) | うち日本医師会会員数 | 6,044名 (±0) | | |
| A | 2,554名 (±0) | B2 | 4,572名 (+4) | C2 | 172名 (-2) |
| B1 | 576名 (+1) | C1 | 111名 (±0) | C3 | 413名 (+1) |

平成23年8月31日現在 () 内前月比

作品紹介

きたおか ふみ お
北岡 文雄 羅白岳錦秋

1918 (大正7) 年～2007 (平成19) 年

東京生まれ。
1989 (平成元) 年の作品。木版・紙 (49.0×63.2)。

東京美術学校 (現・東京芸術大学) 油画科在学中に創作版画運動の先駆者・平塚運一に出会い、平塚の指導を受けて木版画制作の道に入った。初期には、中国木刻画の影響を受けた黒白のリズムや構成的な抽象表現を手がけるなど、作風にさまざまな変遷が見られた。

北海道美の遺産

写真・資料提供：北海道立近代美術館
(札幌市中央区北1条西17丁目 011-644-6881)

1955 (昭和30) 年にはパリへ留学。パリ在住の版画家・長谷川潔の知遇を得て、フランスの美術学校エコール・デ・ボザールの版画科に入学。木口木版の技法を習得するとともに、在仏中の体験を通して自然と人間の尊厳を強く意識するようになり、写実表現への歩みを確信した。

帰国後の一時期、妻の実家である札幌に滞在し、ここで北海道の美術家たちと交流。北海道版画協会や全道美術協会などで指導的な役割を果たした。同時期には、北海道の風土を題材にした木口木版の優れた作品が数多く制作された。それ以来、一貫して写実を基盤とし、平明かつ知的な構成による日本や海外の風土色豊かな木版画の世界を繰り広げた。